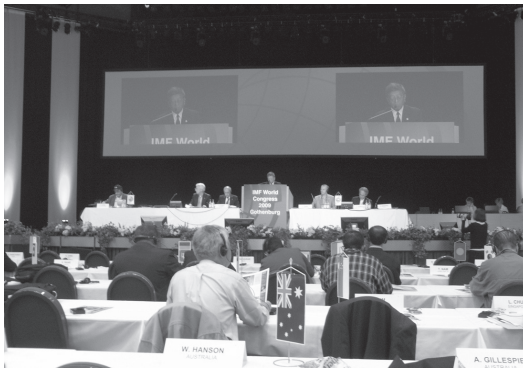


確かな雇用、確かな未来……

IMF世界大会の意義

IMF・JIC 議長／IMF 執行委員 西原浩一郎

「確かな雇用、確かな未来」をスローガンに掲げ、2009年5月25日から27日にかけて第32回IMF世界大会が、IMF・JIC代表団74名をはじめ世界79カ国・134のIMF



第32回IMF世界大会

加盟組織からの代表者約700名の参加のもとスウェーデン・イエテボリで開催された。

IMF世界大会は4年に一度の開催となるが、今回の大会では、将来的なIMFの活動の方向性に関わる重要な決定がなされたという観点から、従来以上に意義ある大会となった。

直面する危機打開への意志結集

1点目は、今日、世界の金属労働者が直面している歴史的な危機の実態と、その背景の本質についての認識を大会全体で共有すると共に、直面する危機を打開し、今後、アクションプログラム（運動方針）に基づき

国際連帯を機軸として、課題克服に向け努力することを確認・決定したということである。

すなわち、公正さよりも効率の追求に、あまりにも重きを置く「小さな政府・規制緩和」に代表される市場原理主義的な政策と行動が世界中に拡大する中、進展したグローバル経済化の負の側面としての様々な格差の拡大・固定化、貧困問題、非正規労働等の不安定雇用の増大、環境問題等が、全世界的な共通問題として大会参加者に共有化されることとなった。

また2008年秋以降の世界同時不況は、实体经济、とりわけ世界各国の金属労働者の雇用と生活に重大な脅威を与え、一部の途上国に



発言する西原IMF執行委員

は、より悲劇的な影響をも及ぼしていることが各国報告により明らかにされた。

大会開催中も、全米自動車労組(UAW)は、デトロイトのUAW本部



世界大会に出席するIMF-JC代表団

と連絡をとりながらGMの破綻処理に向けた懸命な調整を進め、またドイツIGメタルは、GMオベルのイタリア・フィアット社からの買取提案への対応に追われる状況にあった。そして途上国からは、経営側からの労働組合の基本的権利への侵害や、組合員の諸権利や雇用に対する攻撃の不当さを訴えるスピーチが相次ぐこととなった。

今後、IMFはこれらの課題に対して、グローバルな連帯を強化しつつ、「強力な全国労働組合の構築」「労働者の諸権利の擁護・保護」「多国籍企業の力との対抗勢力の構築」等を柱とするアクションプログラムの沿って活動していくこととなるが、



フーバー新会長とIMF-JC代表団

特にIMF-JCとしてはアジア進出の日系企業に焦点をあて、国毎の多様性と現実を直視しつつ、着実なアプローチによる健全な労使関係の構築と労使紛争の未然防止、そして万が一、労使紛争が発生した際には、当該産別および労組との連携による早期解決に向け努力を傾注していく必要がある。

IMF新体制の発足とIMF-JCの役割

2点目は、今大会をもって、ユルゲン・ペーターズ会長、そして20年間の長きにわたり事務局長を務めたマルチェロ・マレンタッキ書記長が退任し、新執行部体制としてIGメ



IMF世界大会会場（スウェーデン イェテボリ）

タルのベオトルト・フーバー会長が新会長に、新事務局長にはユルキ・ライナ北欧金属労連事務局長が満場一致で選出されたということである。

IMF-JCは、今回の役員選出にあたり、両名を強く支持するとともに、世界大会後、直ちにIMF本部新体制との話し合いの場を持ち、今後、IMFが、より実効ある成果を導き出すための活動・組織運営・財政に関わる抜本的な改革の遂行を求めるとともに、特に、アジアにおける国毎の労働組合の置かれた活動環境の違い・多様性への認識を深めながら、それぞれの組織の主体性を尊重した取り組みの推進を要請した。

当然、IMF-JCとしても、IMFにおける存在感の大きさと位置

づけの高さを自覚しながら、それに見合う責任と役割を、しっかりと果たし、IMFの健全な発展に貢献していかなければならない。全てのIMF-JC加盟組織の、引き続きのご理解とご協力を心からお願ひする次第である。

開催地スウェーデン 第二の都市イェテボリ

さてスウェーデン第二の都市イェテボリは、北欧らしい落ち着いた佇まいの清潔な港湾都市であった。かつて造船業で栄えたこの都市は、競争力を失った造船業が衰退した後、ボルボ社の本拠地として自動車産業を基点に産業構造の転換と町の復興を図ってきた歴史がある。今、世界的な自動車不況の中で、ボルボ社もまた苦境に陥っており、リストラ・雇用調整により現地の失業率も大幅に高まっている。

しかし、ボルボ労組の組合役員が私に言った。「我われは挫けない。我われの手で必ず企業再生を果たし、町に活力を取り戻す。我われの力は、この町の歴史が証明している。」と。イェテボリは、世界の金属産業の再生と金属産業労働者の確かな未来を切り拓く決意を固めるIMF大会にふさわしい開催地であった。